



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「人類に奉仕するロータリー」 Rotary Serving Humanity

2016-17年度 RI会長／ジョン・ジャーム

RI.D2590ガバナー／高良 明

横浜旭RC会長／青木 邦弘

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2後藤ビル2F／〒241-0821

TEL.045-365-3273／FAX.045-365-3132

E-mail:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(株岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



旭区民まつりにて宮城復興米販売



第5回チャリティーコンサート



被災地の子ども達にクリスマスプレゼント

2017年4月19日 第2286回例会 VOL. 48 No. 37

■司 会 SAA 安藤 公一

■開会点鐘 会 長 青木 邦弘

■斉 唱 手に手つないで

■出席報告

会員数	30名	本日の出席数	19名
本日の出席率	82.61%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

斉藤、二宮登、二宮麻理子、本山

■他クラブ出席者

二宮麻理子（横浜瀬谷 RC）、後藤（地区）、
新川（新横浜 RC）

■皆出席者表彰



青木 邦弘会員 9年

■会長報告

川崎の踏切事故で犠牲になられた横浜銀行の児玉さんのご冥福を祈りたいと思います。本山さんから人柄等話していただければと思います。

○地区関係

1) 4月13日18時30分から新横浜国際ホテルで会長・幹事会が行われました。

①拡大増強について

- ・ローターアクト（18才～30才）の二重会員
- ・R財団、米山学友によるクラブの設立
- ・法人会員 時期社長の入会（入会金を考慮）
- ・家族会員
- ・衛星クラブの設立、8名から設立できる
例会日を変える
- ・例会を月2回としたクラブが地区に2クラブあります。

等の対策について説明がありました。

2) IMの復活

次年度ガバナー補佐を排出する横浜緑 RC に地区から、3月3日に開催するように要請があり、実施することとなりました。

以前のおり第4・第5グループで実施するとのことです。次期ガバナー補佐がやる気満々です。

3) 次年度の交換留学生受け入れについて、川崎中 RC が受入れ、後半の6ヶ月を旭 RC で受け入れることにつきまして、距離・時間の問題で旭 RC としては、受入れを出来ない旨を説明しました。地区青少年委員長にも電話で説明しました。

4) 横浜みどり RC から4月26日チャリティーコンサートを開催します。席がまだありますとのことです。内容はクラシックコンサートです。

5) 次回の会長・幹事は6月12日(月)18時30分、新横浜国際ホテルで開催されます。参加者は現会長・幹事と次期会長・幹事です。

○クラブ関係

1) 県立旭高校の古谷校長より、旭高校のボランティア活動について理解されている、とのことで学校運営委員会のメンバーになって頂きたいとの申し出がありました。私で良いのか…疑問ですが、受けることにしました。メンバーは10人だそうです。インターアクトクラブの説明会をボランティアをやっている生徒へ説明をしたところ、3年生が中心で2年生は3人しか居なかった。これから1年生が既存のクラブへ入部するので、もう少し時間をください。とのことでした。

■幹事報告

「ひろ君に心臓移植を」の募金として、横浜旭RCより20,000円の支出を致します。

■5分間情報 増田嘉一郎

1) Dグループは4/12例会終了後、研修を実施しました。

出席者～佐藤利明、兵藤、増田(会員敬称略)

2) 青少年奉仕が月間テーマとされているのは、五大奉仕の一つとして、ロータリーは若い世代の育成を支援し、実践することを強調するためである。

3) 青少年のためのプロジェクトとしては、まず今の子ども達の実態を知ることが必要であり、その為の卓話として、塾の講師、学校の先生、少年課の警察官等が挙げた。クラブのプロジェクトとしても、青少年の実態を知るという観点から、青少年の夜のアルバイトの実情を知る為、夜の盛り場見学が挙げた。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

青木 邦弘／①安藤さん、今日はよろしくお願ひします。②二日酔いにも負けず9年間の皆出席を頂きました。有難うございます。

北澤 正浩／安藤公一会員、卓話楽しみにしております。

安藤 公一／本日卓話当番です。宜しくお願ひします。

後藤 英則／安藤公一会員、役に立つ卓話、楽し味にしています。

鈴木 茂之／①みなさん、こんにちは。本日の卓話、安藤会員よろしくお願ひ致します。

田川 富男／安藤さん、あさひを教えてください。旭区を知らないで旭RCを名乗ることは出

来ませんので。

大川 伸一／安藤公一さん、本日の卓話を楽しみにしております。

滝澤 亮／安藤公一会員、本日の卓話をよろしくお願ひします。

佐藤 真吾／安藤公一さん、卓話楽しみです。

岡田 清七／安藤会員の卓話、データでみる旭区、楽しみに聞かせていただきます。

吉原 則光／ばか陽気、真夏のような天気の例会、安藤さんの卓話楽しみです。よろしくお願ひします。

市川 慎二／安藤さん、旭区の卓話楽しみです。

関口 友宏／ワイフの誕生祝いに、きれいな花を頂き。

■卓話「データでみるあさひ2016」

安藤 公一



「データでみるあさひ2016」(会員に配布)を手にした際に旭区の現状がより鮮明に浮かび上がってきました。私の感じた取ったもの一部をここでご披露することで、我々が生活や事業を行っているこの旭区の現状をよりはっきりとご認識頂ける一助となることを祈って卓話を進めて参ります。

旭区誕生当時(昭和45-6年)と最近のデータの比較表をご覧ください。まず人口は45～46年前から10万人以上増え、約25万人となっています。人口増より多い割合で世帯数も増えており約10万世帯、旭区誕生当時の約3倍となっています。

一世帯当たりの人員は、当時から世代別人口推移をみると、15歳未満人口は14,000人減の約3万人、総人口の割合からいうと23.7%から12.8%へと約11%も減っています。一方で65歳以上の高齢人口は、誕生当時の約5,000人から68,000人へと13倍にも膨れ上がり、実数としては横浜市内で第一位、高齢化率27.4%は栄区の28.9%に次ぐ第二位となっ

ています。この表の中で横浜市の18区中第一位を誇っているのはこの高齢人口数だけです。

「旭区のあゆみ」の中で大きな事柄としては、昭和14年に横浜市に編入されたこと、昭和44年10月の旭区の誕生、昭和49年8月の保土ヶ谷バイパスの開通、平成11年4月のズーラシア開園誕生、等々ありますが、平成元年2月に区の花「あさがお」、区の虫「ホタル」が制定され、その後、平成11年10月に区の木「どうだんつつじ」が制定されたことは全く知りませんでした。

次に「人口・世帯の推移表」を見ると15年前の平成15年に252,000人をピークとして徐々に微減傾向にあり約5,000人が減少しているものの、世帯数は未だに増加中となっています。

「年齢別人口ピラミッド」でわかることは、45年前の区誕生当時の20-34の世代が全人口の中核となっていました。同世代が現在の高齢人口の中心となっていることです。また一方で45年前の0-9歳の乳幼児総数が約3万5,000人いましたが、現在ではこの数が2万人と激減していることもある意味深刻な問題といえるでしょう。当時の30前後の若夫婦の子供達が今働き盛りの40-50歳の世代がその中核を構成しており、旭区の平均年齢(46.8歳)世代となっています。

「年齢3区分別人口構成比の推移」と他区との比較表は、誕生当時の年少人口比率は14区で第一位(27.7%)だったのに対し、現在は第10位の12.3%、一方で、老年人口比率も3.1%(13位)だったのが、27.4%(2位)と増大しました。

「人口異動の推移」に移ります。自然増減(出生、死亡による増減)をみると平成22年よりマイナスに転じています。生まれてくる子供より亡くなる方が増えてきています。40年前には3,000人も生まれてくる子が多かったのに。

平成7年の社会増減の約3,000人もの減少は、バブル崩壊による都心不動産価格下落による人口流出、平成17年はその底値の時期と推察されます。

「東京圏内の地域別にみた転入転出者」で気になるのは、殆どの地域に対してマイナス、つまり転出者の方が多く、市内他区と湘南地区からの転入のみがプラスとなっていることです。特に東京23区と23区外のマイナスを

旭区の主な統計指標

区分	最近のデータ				旭区誕生当時のデータ				
	横浜市	旭区	18区 順位	データ 基準日	横浜市	旭区	14区 順位	データ 基準日	旭区 増△減
面積 (km ²)	435.23	32.78	3位	H27.10.1	417.29	35.17	4位	S44.10.1	△ 2.39
人口 *1 (人)	3,726,167	247,234	5位	H27.10.1	2,143,820	139,812	7位	S44.10.1	108,352
世帯数 *1 (世帯)	1,645,245	102,883	6位	H27.10.1	610,761	37,082	8位	S44.10.1	65,712
一世帯あたり人員 (人)	2.25	2.41	8位	H27.10.1	3.51	3.77	3位	S44.10.1	△ 1.36
人口密度 (人/km ²)	8.561	7,542	12位	H27.10.1	5,137	4,302	12位	S44.10.1	3,269
年少(15歳未満)人口 *2 (人)	478,972	30,604	6位	H27.9.30	530,939	44,724	4位	S45.10.1	△ 13,886
年少人口比率 (%)	12.8	12.3	10位	H27.9.30	23.7	27.7	1位	S45.10.1	△ 15.3
生産年齢(15~64歳)人口 *2 (人)	2,388,957	150,142	6位	H27.9.30	1,606,628	111,480	7位	S45.10.1	40,917
生産年齢人口比率 (%)	64.1	60.3	17位	H27.9.30	71.8	69.2	14位	S45.10.1	△ 8.3
老年(65歳以上)人口 *2 (人)	860,975	68,375	1位	H27.9.30	100,697	4,983	12位	S45.10.1	61,731
老年人口比率 高齢化率 (%)	23.1	27.4	2位	H27.9.30	4.5	3.1	13位	S45.10.1	23.8
平均年齢 (歳)	44.7	46.8	3位	H27.9.30	29.5	-	-	S45.10.1	-
昼夜間人口比率 (%)	91.5	78.8	13位	H22.10.1	91.7	70.2	13位	S45.10.1	8.6
事業所数	120,778	5,608	11位	H26.7.1	87,392	3,720	10位	S47.9.1	1626
区域面積に占める公園の割合 (%)	4.15	5.44	3位	H27.3.31	-	-	-	-	-
人口10万人当たり病床数	598.2	832.6	2位	H27.4.1	-	-	-	-	-
市税収入 (百万円)	719,974	22,446	14位	H26.年度	-	-	-	-	-

*1 国勢調査結果を基礎として、住民基本台帳法、外国人登録法、戸籍法に定める届出等を加減して推計

*2 「最近のデータ」は住民基本台帳、外国人登録簿等に人口を年代別に集計。「区誕生当時のデータ」は国勢調査結果

合わせると460名もの人数となっています。

「平均寿命」をみると総じて都心部が短く郊外部が長い傾向にあります。旭区はどちらも平均値とみてよいでしょう。

「出生数と死亡数の推移」をみると区の誕生当時と現在を比較すると驚くべき数字になっています。出生数は昭和45年4,400人に対し平成27年にはそのほぼ三分の一の1,600人。一方死亡数は、当時僅か441人に対し平成27年にはその6倍もの2,400人に達しています。差し引きで考えると昭和45年には4,000人もの自然増に対し、平成23年からほぼ毎年400人以上、27年至っては700人もの自然減となってしまっています。放っておくとこの傾向に拍車がかかり20年後には旭区の人口は20万人を切ることも十分考えられます。

「昼夜間人口比率、旭区から通勤通学地、旭区への通勤通学者の住所地」をみると総人口の約三分の一にあたる約8万人が区外へ働きに出ていて、約35,000人が区内で働いており、一方区外から働きに来ているのが31,000人。区内の総就業者が66,000人となっています。数式で表すと

総人口 250,000 人
- 区外への通勤者 80,000 人

+区外からの通勤者 31,000 人
 =昼間人口約 200,000 人弱
 「町別世帯数、人口、年齢3区分別割合」です
 が極めて興味深い数字が並んでいます。
 各項目ベスト3を紹介します。

面積（単位平方km）

上川井町 3.603
 上白根町 1.827
 市沢町 1.211

世帯数

東希望ヶ丘 5,004
 上白根 4,931
 中希望ヶ丘 4,840

人口

東希望ヶ丘 10,555
 さちが丘 10,215
 中希望ヶ丘 10,163

人口密度

若葉台1丁目 21.66
 中白根4丁目 19.19
 若葉台4丁目 18.11

15歳未満年少人口

さちが丘 1,552
 市沢町 1,480
 今宿東町 1,218

同上割合

金が谷 27.9%
 今宿町 24.5%
 南本宿 / 市沢 / 今宿東 15.8%（同率）

生産年齢15-64人口

さちが丘 7,028
 中希望ヶ丘 6,368
 東希望ヶ丘 6,328

同上割合

矢指町 70.7%
 二俣川2丁目 70.1%
 白根4丁目 69.6%

高齢人口65歳以上

左近山 3,916
 上白根 3,759
 東希望ヶ丘 3,087

同上割合

若葉台1丁目 50.6%
 若葉台2丁目 46.7%
 左近山 43.5%

平均年齢高齢順

若葉台1丁目 57.4%
 若葉台2丁目 55.5%

左近山 54.3%

平均年齢若年順

金が谷 34.7
 今宿町 37.0
 矢指町 39.8

「区の土地事務成割合」をみると宅地割合

泉区 55.2%、緑区 57.4%に次いで低い 60.8%
 山林割合では緑区 14.7%、栄区 12.3%に次い
 で多い 10.5%。注目すべきはその他の 15.5%
 が横浜市中第一位。何ですかね、ゴルフ場？

「都市計画区域の割合」では市街化調整区域の
 割合が泉区 49%、緑区 41.2%に次いで多い
 39.0%でした。

平成23年からの「土地平均価格」が毎年
 載っています。商業地は5年で18.8%、平米
 63,900円（坪当たり約21万円）の下落、一
 方住宅地は殆ど変化がありません。

「住宅・公園」では、建設時期別住宅数の割
 合では、建設期間がそれぞれ違っているの
 で、何を意図して記載しているのか理解しか
 ねます。最初は昭和35年までの建物、昭和
 36年から昭和45年（10年間）、昭和46
 年から昭和55年（10年間）、昭和56年
 から平成2年（10年間）ここまでは10年
 毎。続いて平成3年から平成7年（5年
 間）、平成8年から平成12年（5年間）、
 平成13年から平成17年（5年間）、平成
 18年から平成22年（5年間）、続いて平
 成23年から平成25年9月（2.5年）。何
 か理由があるのであれば教えてください。

学校では「園児・児童及び生徒数の推移」
 をみると昭和45年当時と比べて総数では
 600人程度しか減っていないのは意外で
 した。しかしその下の「学校の現況」を見
 ると昭和45年当時より高等学校は3校増
 えて6校となり、中学校に至っては9校増
 えて13校といずれも学校数は増えていま
 す。それに伴い生徒数も高校で1,200人
 増え5,150人、中学校も1,200人増え
 て5,533人となりました。その一方で小
 学校は8校増えて25校になったにもか
 かわらず2,200人減って12,400人とな
 りました。当時は40名程度であった1学
 級の人数減少も現在は27名を割り込んで
 います。

次の「高校卒業者の進路別割合」では近
 年約8割が進学し、100名に満たない人
 数が就職しています。

安心・安全（警察）では昭和47年の犯
 罪件数1,117件に比べ約400件増の1,530
 件、5年前の1,961件比べると減少傾向
 にあると言

えます。人口総数が1.7倍程度に増えていきますので、人口比では犯罪件数割合は減少しています。

「交通事故発生件数と死傷者の推移」では、昭和44年当時より件数は約300件増えているものの増加比率は1.62倍で、人口増加率1.67倍を下回っています。車を運転される方のみならず皆さん交通事故には気を付けましょう。

火災件数は昭和45年当時より近年減少しており、一昨年は56件でした。当時の世帯数の約2.8倍となっているので、発生率は約3分の1になったといえます。消防団の皆様のお陰です。「救急出場件数の推移」は昭和45年当時の6.4倍の11,605件、1日平均で約32回救急車が呼ばれていることとなります。高齢化人口が増えていくと、この件数が減ることは考え難く、過去5年だけをみても毎年増えています。

生活と環境をみるとゴミの総量はこの5年少しずつ減ってきています。区民の皆さんの意識が高いといえるでしょう。

交通・道路で「自動車保有台数」をみると総数がほぼ世帯数と同じ10万余り、乗用と軽自動車を合わせると89,000台となっています。今後高齢者が運転を止め、若い世代の自動車離れが進んでいくと減っていくことになるのでしょうか。

「日平均乗降客数」では各駅ごとに数字がありますが、全ての駅で昭和45年当時より増加しています。鶴ヶ峰1.62倍、二俣川1.49倍、希望が丘1.25倍です。3駅合計で171,000人、乗り降りで考えると2で割って約8,500人の方が利用している事になります。今後各駅の乗降客数の推移がどうなっていくのか興味のあるところですよ。

「都市計画道路整備率」をみると栄区の40.7%に次ぐ42.1%と低い数字となっています。

「放置自転車・オートバイ」ですが二俣川以外の駅は、思いの外少ないと感じました。二俣川南口再開発事業終了後にはこの数字が減ると良いですね。

福祉保健（健康）の「人口10万人当たりの病院一般病床数」で旭区は金沢区に次いで第2位です。金沢区の人口が20万人で旭区の5分の4ですので総病床数はほぼ同じと思われます。高齢人口数が多い影響もあるのでしょうか。

「主要死因別死亡者数の推移」を見ると過去

5年で減少しているのが、脳卒中、増えているのが心臓病と癌であることがわかりをます。皆様健康にも気をつけましょう。

福祉保健（子育て）の「出生率の推移」を見ると過去5年で0.8人減少しています。横浜市の平均を1.2人下回っています。

近年話題に上ることが多い「保育所の状況」です。42施設で2,953人を収容して待機児童ゼロを達成しています。このあたりが旭区の魅力となっていけば良いのですが。

福祉保健（高齢者福祉と介護）の「高齢化比率の推移」を見ると昭和45年（1970年）には横浜市平均を下回る3.1%だったのですが、平成7年（1995年）には平均の11%を越え、その差は広がるばかり。平成27年（2015年）には27.4%と横浜市平均に4.3ポイントの差を付ける市有数の高齢区となっています。「高齢者単身世帯数と割合」をみると1万世帯弱でほぼ10世帯に1つが高齢単身世帯となっています。区としても大きな問題です。「介護保険の要介護要支援認定数」では、高齢人口約68,000中の16.54%がその対象、65歳以上の6人に1人が支援・介護をされています。過去5年を見ても毎年500名前後の増加が認められます。

福祉保健（生活保護）（障害者）（国民年金）（国民健康保険）の「生活保護世帯数及び人員の推移」主では過去5年で約400世帯、約400人の増加となっています。「障害者手帳所持者」合計で11,483人、この内の一人が私の父親です。「国民健康保険加入状況の推移」では後期高齢者被保険者数が過去5年で約5,000人増加していて31,766人となっています。

産業（事業所）では、5,608事業所で61,160人の方が就労されており、1事業所当たりの従業員数は10.9人となっています。業種別では卸売・小売業が事業所数数のトップで1,229（21.9%）ですが、従業員数でいうと医療・福祉関係がダントツの16,021人（26.2%）を占めていることも特筆すべき点です。一事業所当たりの従業員数もトップの22.6人々々となります。

産業（商業）では、卸売・小売の区別事業所数、従業員数、売上とありますが、各々平均すると卸業では事業所当たり8人の従業員で5.4億円、一方小売は、10.6人で1.94億円を売り上げていることとなります。厳しい

状況であることは容易に推測されます。

「商店数の推移」商店数の推移は更に衝撃的な数字です。平成9年(1997年)には1,421あった小売店が平成26年(2014年)には半分以下の704になってしまっています。卸業も平成11年(1999年)の251をピークとして159にまで3分の2まで減っています。モノを売るのに厳しい状況が続いています。

産業(工業・農業)では現在71事業所で1,633人が働き558億円の売上をあげていますが、昭和45年当時は118事業所で3,534人が就業していたことを考えると事業所数で40%減、従業員数で54%減となっています。

一方、農業も昭和60年(1985年)は、674の農家で1095人が就業していたのに対し、平成22年(2010年)では、379の農家で463人と各々44%減、58%減となっています。

市税では、旭区は横浜市で下から5番目の224億円しかありません。過去5年大きな変化なく推移しています。

選挙の投票率ですが、横浜市では上から5番目です。年代が上がるに連れ投票率も高くなっています。平成22年から27年に行われた選挙では、その全てで横浜市平均を1%程度上回っています。

以上のようにこの資料の数字を紹介してきましたが、今後20年このまま何も手を打たずに平成50年を向かえたとすると人口の減少に伴う地域の活力低下はまず間違いのないところでしょう。

我々の生活・仕事の基盤となるこの旭区に対し、横浜旭ロータリークラブとして何ができるのか、何をしていかななくてはいけないのか等々を継続して考え続け、実行に移していきたいと考えています。その手始めとして当クラブ50周年記念行事も同様に考えて行けば良いのかとも思っています。

先月、横浜市都市計画マスタープランに基づく旭区マスタープランの草稿ができあがりました。これから区民の意気を聴取し修正を行っていくようです。区役所に頼めばその草稿は入手可能と聞いております。このような行政の基本的方針を積極的に理解し、協力を惜しまない姿勢が社会奉仕に繋がっていくものと思います。

■次週の卓話

5/3(水)休会

5/10(水)青少年フォーラム

週報担当 今野 丁三

2016～2017年度 第14回 理事会 議事録	
日 時	平成28年4月5日(水) 18時30分～
場 所	事務所 市川 慎二
報告事項	青木 邦弘 安藤 公一 五十嵐 正 新川 尚 北澤 正浩 滝澤 亮 田川 富男 佐藤 真吾 (欠 席) 二宮麻理子 福村 正 鈴木 茂之
報告事項	1)タウンニュース広告掲載(花博広告)2万円 2)旭ジャズ祭り寄付 2万円 3)市川会員出産祝 1万円 4)米山奨学生沈さんのカウンセラー 後藤会員 5)財団グローバル留学生鈴木さんのカウンセラー 新川会員
審議事項	1)出張交通費について 理事会承認を条件に上限1万円補助 承認 2)地区交換留学生委員の推薦 青木を推薦 承認 3)新事務所の件 電気・水道料金現使用料金と同額を6ヶ月分前払いとする。 承認 事務所の工事費はクラブで負担する。 承認 4)細則変更について 現在作成中 5)がんセミナー決算報告 承認 6)がんセミナーについて、毎年実施 セミナーについては、20-30人の少人数で実施予定 職業奉仕委員会に一任